



## プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2016 年 9 月 16 日

氏名： 後藤 和久

所属機関・職名： 東北大学・准教授

IODP 研究航海番号 および航海名	IODP Exp.364 Chicxulub K-Pg impact crater
乗船時の役割	Sedimentologist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2016 年 9 月 14 日 ~ 2016 年 9 月 15 日
実施場所	高知コアセンター
実施による成果と今後の計画 高知コア研究所において、プレクルーズトレーニングを実施した。まず、IODP 全体の概要や試料の記載方法等、オンショアサイエンスパーティ (OSP) での作業内容の確認を行った。特に、コアフロー、コアの上下方向の判定、掘削手法等の違いによるラベルの判読法、記載やサンプリングを行う際の注意事項についても確認した。次に、掘削試料の初期分析に関わる施設の見学 (コア保管庫、地下生命試料保管庫、X線 CT、マルチセンサーコアロガーなど) を実施した。また、メンバー間でそれぞれの研究内容や各自の役割について議論するなど、OSP に向けた準備を行った。	
備考	

### 注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



## プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2016年 9月 19日

氏名：佐藤 峰南

所属機関・職名：海洋研究開発機構・JSPS 特別研究員

IODP 研究航海番号 および航海名	Exp. 364 Chicxulub Impact Crater
乗船時の役割	Inorganic Geochemist
出張期間（移動含む）	2016年 9月 14日 ～ 2016年 9月 15日
実施場所	高知コアセンター
実施による成果と今後の計画 <p>今回のプレクルーズトレーニングでは、IODP Exp.364（白亜紀/古第三紀境界の隕石衝突によって形成されたチチュルブクレーター）によって掘削された試料の記載・分析を行う際の作業工程に関するレクチャーをしていただいた。掘削試料のカットから記載、初期分析に至るまで、どのような流れで行うかについて、具体的な方法や使用機器の説明を聞くことができ有益であった。また、コア試料の保管庫の見学や、過去の掘削試料を用いたサンプリング方法のレクチャーを受けることができ、実際の作業をイメージしやすく有意義なものとなった。</p> <p>9月21日より、ブレーメンにて実際の掘削試料の記載・分析作業が始まるため、本トレーニングで得た知識を生かし、チチュルブクレーター掘削研究がより良い研究成果をあげられるよう、参加者と協力しながら作業に取り組みたい。</p>	
備考	

### 注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



## プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2016年9月22日

氏名： 富岡尚敬

所属機関・職名：海洋研究開発機構・主任技術研究員

IODP 研究航海番号 および航海名	EXP364: Chicxulub impact crater
乗船時の役割	Impact petrologist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2016年9月14日 ~ 2016年9月15日
実施場所	高知コアセンター
実施による成果と今後の計画	
<p>2016年9月14日</p> <ul style="list-style-type: none"><li>IODPキュレーターのグプタ氏より、IODPの組織とコアフローの概要について詳細な講義をいただいた。</li><li>掘削試料の初期分析に関わる施設の見学（コア保管庫、DeepBiOS試料保管庫、X線CT、マルチセンサーコアロガーなど）を行った。</li></ul> <p>2016年9月15日</p> <ul style="list-style-type: none"><li>掘削コアからのサンプリング作業について、ラボにてグプタ氏から概要説明を受けた。</li><li>掘削試料の専門的分析に関わる施設の見学（同位体地球科学研究グループ及び、地下深部生命研究グループの各実験施設）を行った。</li><li>日本からの Exp. 364 参加者 4 名で、試料入手の戦略について意見交換を行った。</li></ul> <p>私を含め、日本からの参加者はいずれも IODP 掘削の Onshore Sampling Party は初めて経験である。そのため、事前に予備知識を学ぶ機会が得られたことは極めて有意義であった。Onshore Sampling Party は 2016 年 9 月 21 日～10 月 19 日の期間にドイツ・ブレーメン大で行われ、掘削したコア試料の初期記載を行う。また、その後の研究に用いるサンプルの選別を行う。今後の 2 年間で、より専門的で詳細な岩石学・鉱物学的分析を行い、チュクシュループクレーターの岩石の衝撃変成についての成果を、研究集会で発表するとともに、論文としてまとめる予定である。</p>	
備考	

### 注意事項

- 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



## プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2016年9月26日

氏名： 山口 耕生

所属機関・職名： 東邦大学・准教授

IODP 研究航海番号 および航海名	Exp. 364 Chicxulub Impact Crater
乗船時の役割	Inorganic Geochemist (OSP) (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2016年9月14日 ~ 15日
実施場所	高知コアセンター
実施による成果と今後の計画 実施内容 9/14 Wed <ul style="list-style-type: none"><li>Exp.364 の日本人参加者 4 人が初めて一同に会し、IODP の組織とコアフローに関して、IODP キュレーターの Gupta 氏による講義を聴講した。</li><li>コアセンターの研究施設の見学を行った。</li></ul> 9/15 Thu <ul style="list-style-type: none"><li>サンプリング作業に関して、Gupta 氏から概要説明を受けた。</li><li>昨日に引き続き、コアセンター内の種々の最先端分析装置の見学を行った。</li><li>Exp.364 参加者 4 名で、試料入手の戦略等について意見交換を行った。</li></ul> 全体を通して <ul style="list-style-type: none"><li>IODP の諸々について事前に学ぶ機会が得られたことは、大変有意義であった。</li></ul> 今後の計画 <ul style="list-style-type: none"><li>2016年9月21日から MARUM で始まる OSP では、会議で専門別に分かれて試料採取の方針等を議論した後、コア試料の観察・試料採取の他、geochemist として試料の粉末化と各種地球化学分析を行う。</li><li>採取試料が所属大学に届き次第、より専門的な各種地球化学分析を精力的に行い、複数の論文にまとめ、国際学会等で発表する。</li></ul>	
備考 旅費支援および種々の事務手続き、誠にありがとうございました。	

### 注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。